



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	2005年9月 中国北京出張（第22回世界法律家大会）レポート
Author(s)	李, 揚
Citation	知的財産法政策学研究, 11, 250-251
Issue Date	2006-04
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/43477
Type	other
File Information	11_250-251.pdf



2005年9月 中国北京出張 (第22回世界法律家大会) リポート

李 揚

(COE研究員・中南財經政法大学法学院副教授)

2005年9月6日から8日まで、第22回世界法律家大会事務局及び中国の知的財産法の著名な学者である北京大学知的財産学院の鄭勝利教授に招聘され、田村善之教授、李揚研究員、劉曉倩研究員、里谷菜津美研究支援員の4名が、北京で開催された第22回世界法律家大会に参加した。

9月7日に北京大学で開催された分科会「情報時代における知的財産権の国際検討会」で、田村教授は「知的財産法の理論について」と題する講演を行った。田村教授の観点、すなわち、知的財産法を市場指向型と機能型と自由統御型の視点から別の角度で眺めることは、参加者の興味を非常にそそるものだった。田村教授は北京大学の学生から質問された「この分類の趣旨」「この分類の知的財産制度での応用」などの問題に丁寧に回答した。李揚研究員も「知的財産の覇権主義についての検討」というテーマで報告を行った。李揚研究員はTRIPsの制定と実施に伴う知的財産の覇権主義の台頭やその危険性を指摘し、知的財産法を地域ごとの実態に即して適用させることの重要性を強調した。李揚研究員の観点は激しい議論を招致した。この報告に反対する論者は知的財産の国際化を覇権主義と同一視してはならないと主張した。

以上のテーマのほかに、検討会では「中国知的財産戦略」や「遺伝資源の保護」といった、様々なテーマをめぐって深く討論が行われた。参加者には北京大学知的財産学院の教員・学生のほか、台湾政治大学法学部や清華大学法学院、中国人民大学法学部の担当教官及び中国最高裁判所の裁判官なども含まれ、互いに問題意識を共有することができた。

最後に、我々一行に様々な便宜を図ってくださった第22回世界法律家大会事務局関係者及び北京大学知的財産学院の鄭勝利教授に厚く感謝の意を申し上げたい。